



2024年6月27日

各 位

株式会社 R V H
代表取締役社長 荻野 善之
(東証スタンダード・コード6786)
問合せ先 IR・広報室
電話 (03-6277-8031)

(訂正・数値データ訂正)
「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社が2024年5月14日に公表いたしました「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後に、減損損失のうち一部につき科目名を修正したため、当該箇所の訂正を行うものです。また、数値データ(XBRLデータ)にも訂正がありましたので、訂正後の数値データも送信いたします。

2. 訂正の内容

訂正箇所には_を付して表示しております。

添付資料 2ページ

1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況 本文4段落 6行目

(訂正前)

一方、2022年より開始いたしました再生可能エネルギー事業領域においては、太陽光発電関連事業に係る案件の大半が、電力接続のための連携工事に係る所要工期が長期化する見通しとなったこと、および開発予定地関係者との合意形成に想定以上の時間を要していること等から見送ることとなり、残る案件についても案件譲渡交渉が成立に至らなかったこと、当該1案件の譲渡交渉は引き続き継続する方針であるものの、これまでの経緯と現在の状況から今後も想定以上の時間を要する可能性があること、その他の再生エネルギー事業領域に関連する新規事業についても検討を進めているものの具体的な収益見通しは未定であること等から、株式会社BS ENERGY及び井の三風力発電株式会社に係るのれん 507,981千円、太陽光発電関連事業に係る仕掛品 100,000千円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(訂正後)

一方、2022年より開始いたしました再生可能エネルギー事業領域においては、太陽光発電関連事業に係る案件の大半が、電力接続のための連携工事に係る所要工期が長期化する見通しとなったこと、および開発予定地関係者との合意形成に想定以上の時間を要していること等から見送ることとなり、残る案件についても案件譲渡交渉が成立に至らなかったこと、当該1案件の譲渡交渉は引き続き継続する方針であるものの、これまでの経緯と現在の状況から今後も想定以上の時間を要する可能性があること、その他の再生エネルギー事業領域に関連する新規事業についても検討を進めているものの具体的な収益見通しは未定であること等から、株式会社BS ENERGY及び井の三風力発電株式会社に係るのれん 507,981千円を減損損失として、太陽光発電関連事業に係る仕掛品 100,000千円を棚卸資産評価損として特別損失に計上いたしました。

添付資料 4 ページ

1. 経営成績等の概況 (2) 当期の財政状態の概況 (資産)

(訂正前)

当連結会計年度末における流動資産は 948,446 千円 (前連結会計年度末と比較して 216,956 千円減) となりました。これは主に、株式会社BS ENERGYの営農型太陽光発電設備の縮小等に伴う減損処理等により仕掛品が 111,786 千円減少したこと、貸付金の回収および長短区分の振替により短期貸付金が 64,652 千円減少したこと等によるものであります。

(訂正後)

当連結会計年度末における流動資産は 948,446 千円 (前連結会計年度末と比較して 216,956 千円減) となりました。これは主に、株式会社BS ENERGYの営農型太陽光発電設備の縮小等に伴う棚卸資産評価損の計上等により仕掛品が 111,786 千円減少したこと、貸付金の回収および長短区分の振替により短期貸付金が 64,652 千円減少したこと等によるものであります。

添付資料 5 ページ

1. 経営成績等の概況 (3) 当期のキャッシュ・フローの概況 (営業活動によるキャッシュ・フロー)

(訂正前)

営業活動の結果、使用した資金は 2,195 千円 (前連結会計年度は 117,965 千円の獲得) となりました。これは主に、減損損失 507,981 千円、のれん償却額 128,308 千円、棚卸資産の減少額 117,514 千円があった一方、税金等調整前当期純損失 798,634 千円、未収入金の増加額△29,318 千円があったことによるものであります。

(訂正後)

営業活動の結果、使用した資金は 2,195 千円 (前連結会計年度は 117,965 千円の獲得) となりました。これは主に、減損損失 507,981 千円、のれん償却額 128,308 千円、棚卸資産評価損 100,000 千円があった一方、税金等調整前当期純損失 798,634 千円、未収入金の増加額△29,318 千円があったことによるものであります。

添付資料 8 ページ

3. 連結財務諸表及び主な注記 (2) 連結損益計算書

(訂正前)

特別損失		
固定資産除却損	3,921	0
減損損失	—	607,981
その他	—	499
特別損失合計	3,921	608,481
税金等調整前当期純損失 (△)	△168,153	△798,634

(訂正後)

特別損失		
棚卸資産評価損	—	100,000
固定資産除却損	3,921	0
減損損失	—	507,981
その他	—	499
特別損失合計	3,921	608,481
税金等調整前当期純損失 (△)	△168,153	△798,634

3. 連結財務諸表及び主な注記 (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(訂正前)

営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△168,153	△798,634
減価償却費	16,318	20,909
のれん償却額	64,154	128,308
受取利息及び受取配当金	△16,981	△16,250
減損損失	—	507,981
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△25,860	24,181
売上債権の増減額 (△は増加)	19,790	34,269
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△21,043	<u>117,514</u>
未収入金の増減額 (△は増加)	6,267	△29,318
仕入債務の増減額 (△は減少)	△14,324	△3,261
未払金の増減額 (△は減少)	△5,041	△8,338
その他	△1,327	△7,944
小計	<u>△146,199</u>	<u>△30,583</u>

(訂正後)

営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△168,153	△798,634
減価償却費	16,318	20,909
のれん償却額	64,154	128,308
受取利息及び受取配当金	△16,981	△16,250
減損損失	—	507,981
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△25,860	24,181
売上債権の増減額 (△は増加)	19,790	34,269
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△21,043	<u>17,514</u>
棚卸資産評価損	—	<u>100,000</u>
未収入金の増減額 (△は増加)	6,267	△29,318
仕入債務の増減額 (△は減少)	△14,324	△3,261
未払金の増減額 (△は減少)	△5,041	△8,338
その他	△1,327	△7,944
小計	<u>△146,199</u>	<u>△30,583</u>

以 上